

淡路島の修学旅行における ニューノーマルな旅のスタイル

～ウィズコロナ時代における実施状況と感染症対策～

Presented by  PASONA

◆ ウィズコロナ時代の修学旅行こんな悩みありませんか？

担当教員が、修学旅行の実施に関して考える上で、

- ・ 他校はどのぐらい修学旅行を行っているのか知りたい
- ・ 修学旅行が中止になった場合の対応が不安
- ・ 修学旅行をなんとか実施したいと考えているが行き先で迷っている

目次

- ・ ウィズコロナ時代の修学旅行の現状
- ・ 修学旅行の行き先の変化
- ・ 代替活動の実施状況
- ・ ニューノーマル時代の修学旅行スタイル
- ・ 淡路島におけるコンテンツ比較
- ・ ニューノーマル時代の注目コンテンツ詳細
- ・ 旅行中の感染防止対策



◆ ウィズコロナ時代の修学旅行の現状

現在の実施(予定)状況

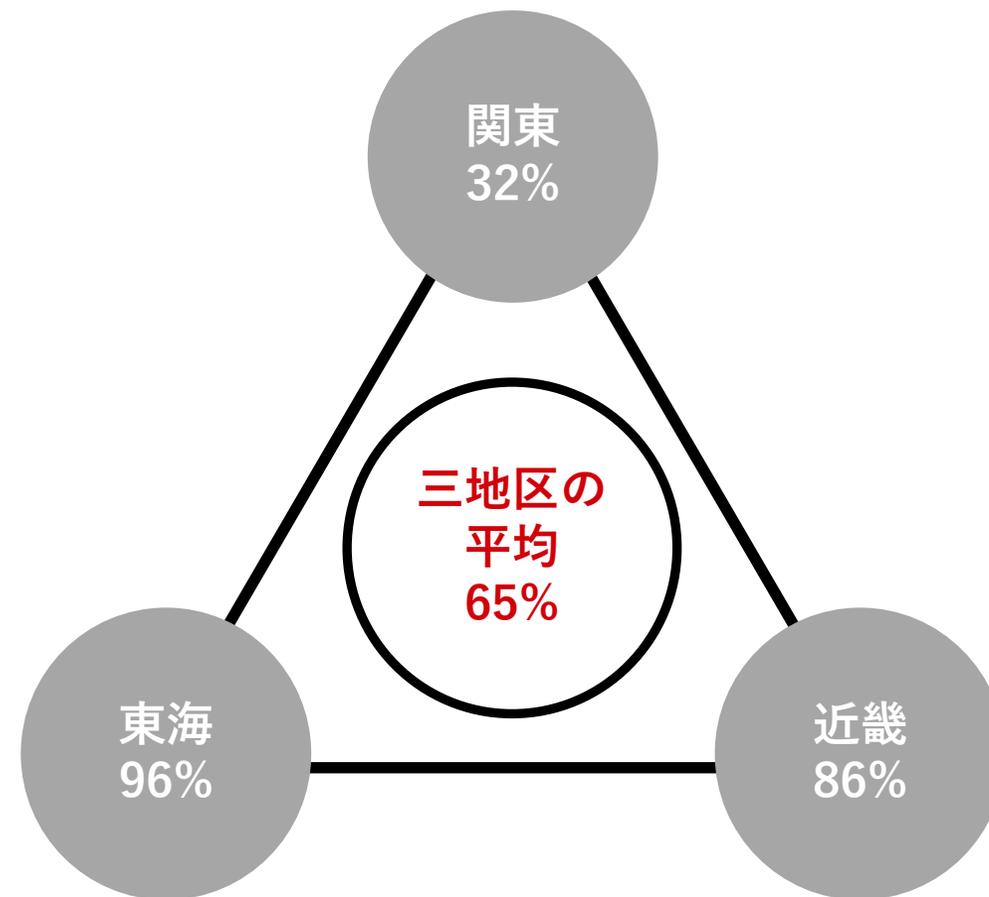
令和2年11月時点の状況

2021年3月までに3地区合わせて

2,008校が実施予定（高校や中学校）

※2021年1月8日発令の緊急事態宣言前

3地区とも春の出発はほぼ延期または中止となった。その後、8月からは延期した学校が順次出発し、11月までに関東地区で240校、東海地区が551校、近畿地区では923校と、合計1,714校が実施した。11月の調査時点で2021年3月までに3地区合わせて2,008校が実施する予定であった。



◆ ウィズコロナ時代の修学旅行の現状

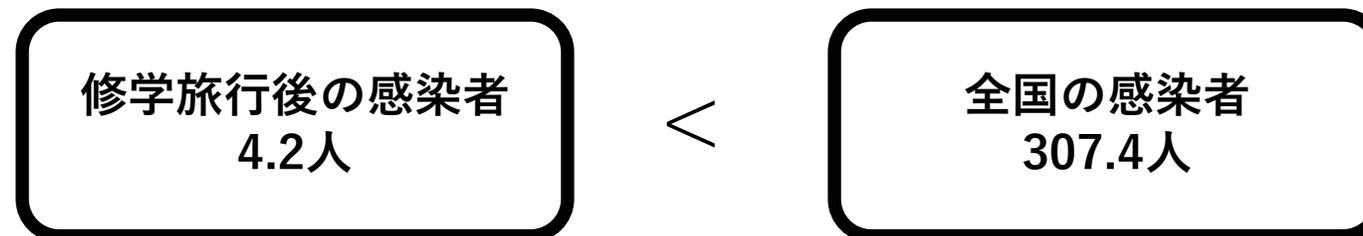
修学旅行参加者のコロナ感染状況

ポイント

修学旅行後の感染者数は4.2人と大幅に少ない。

◆2020年3~12月に修学旅行に出発した71万人※1のうち、修学旅行後にコロナ感染が判明したのは30人※2

◆これを10万人あたりの感染者数として、全国の感染者数※3と比較すると以下のとおり



※1 JTB、日本旅行、KHT、東武トップアッワーズの4社が取り扱った修学旅行の、2020年3月~12月出発分の合計。対象は全国、全輸送機関。

※2 修学旅行後に新型コロナウイルス感染症を発症した場合、基本的には保健所および学校から旅行会社に報告がある。それにより旅行会社が知得したケースをまとめたもの。(修学旅行中に感染とは限らない。)

※3 2021年1月31日時点のもの。

◆ 修学旅行の行き先の変化

実施地域の変化

修学旅行は、子供たちにとって学校生活の思い出に残るだけではなく自然や文化に親しむ教育活動としても大切な役割があります

しかし、新型コロナウイルスの影響で中止・変更となるケースが生じている



文部科学省、観光庁

感染状況等を踏まえ、感染防止策の確実な実施や保護者などの理解・協力を前提に、実施方法の適切な変更・工夫について検討してみよう！

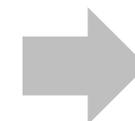
その結果、

近隣県で実施するケースが大きく増加した

西日本の場合

目的地：西日本→西日本

2019年
全体の **3%**



2020年
全体の **27%**

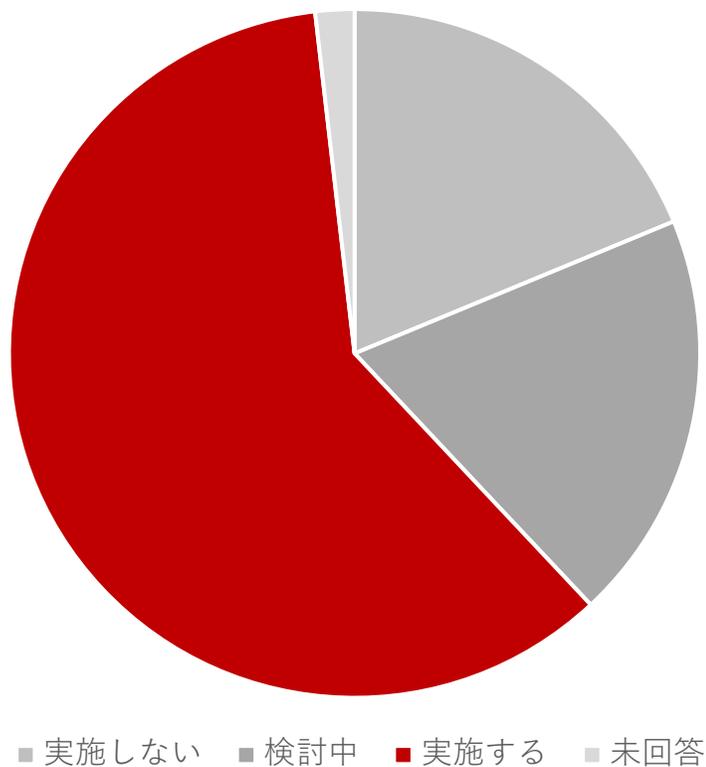
近距離を目的地として選ぶ学校の増加率

驚異の増加率 **800%** を記録

参考：2020(令和2)年度 修学旅行の実施状況並びに「学びの集大成を図る修学旅行」の取組について

◆ 代替活動の実施状況

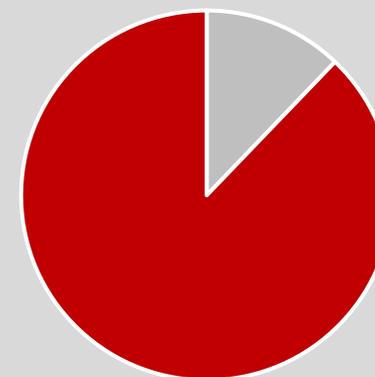
修学旅行を中止した学校の代替活動について



実施した、もしくは
実施を検討している学校

79%

(補足)修学旅行の内容変更に伴う追加行事について



追加行事を
おこなった学校

88%

□ 検討中 ■ 実施した

◆ ニューノーマル時代の修学旅行スタイル

■ 今注目されている4つのコンテンツ



屋外アクティビティ

屋外の自然を活かした開放的な空間で、身体を動かしながら仲間と課題に取り組むチームビルディングが人気です。



ESD学習

様々な社会課題を主体的に捉え、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。修学旅行を通して、持続可能な社会を考えるきっかけを提供します。

芸術鑑賞

劇中に登場する楽曲、舞台に立つ俳優、大道具、衣裳、照明、音響など、この舞台に関わる人のプロとしての「技と力」を体感いただけます。



自然・災害学習

自然の驚異を肌で感じると共に、防災意識の醸成や、自分で考え、判断し、行動できる力（自助力）を身に付けることができます。



◆ 淡路島におけるコンテンツ比較

コンテンツ	屋外アクティビティ	ESD学習	芸術鑑賞	自然・災害学習	内容
体感型SDGs研修 (パソナグループ)	○	○		○	SDGsの根底にある考え方である「共創」「循環」「多様性」を多面的に理解し“体感”することでSDGsを自分事にし、実践に繋げるきっかけを提供します。
地方創生セミナー (パソナグループ)		○			少子高齢化／過疎化／遊休農地／遊休施設など数々の問題点をかかえる淡路島で取り組んでいる地方創生の歴史や事例を交えて振り返りながら学ぶセミナーです。
アニメパーク ニジゲンノモリ (パソナグループ)	○				アニメパーク「ニジゲンノモリ」で、教室では学べない五感を刺激する遊び体験によって日常とはひと味違う生徒様の側面を発見することができます。チームビルディングプランでは、英語での実施もできます。
Awaji Nature Lab & Resort (パソナグループ)	○	○		○	農・食・住の体験を通じた自然と共生する持続可能なライフスタイルを提案するサステナブルガーデン「Awaji Nature Lab & Resort」で野菜収穫体験などの農業体験が楽しめます。
劇場 波乗亭 芸術鑑賞会 (パソナグループ)			○		日本の伝統文化を発信する施設「青海波 波乗亭」で、有名劇団出身の演出家を招いた舞台やバレエやミュージカルなどのオリジナルショーを上演。
北淡震災記念公園 震災学習				○	阪神淡路大震災の被災者による語りべや野島断層の見学などを通して、地震に備えることの大切さや自分や周りの人の命の尊さを五感から学びます。
淡路人形座 人形浄瑠璃鑑賞			○		学校等（小・中・高）において巡回公演を行い、子供たちに質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保し、計画的・継続的なワークショップ等を実施しております。
うずしおクルーズ				○	鳴門海峡でしか味わうことのできない世界最大の渦潮と壮大な潮流の自然現象を目の前で体感いただけます。

◆ ニューノーマル時代の注目コンテンツ

■ 屋外アクティビティ



取り組み過程では困難もありますが、仲間と協力して乗り越えながら、コミュニケーション力、企画力、プレゼンテーション力などを身につけることができます。

メリット



クラスメイトを より理解

取り組みに対してチームでコミュニケーションを取り合うことで、普段では知ることができなかったことを理解し合うことができます。



クラスメイトの 団結力を高める

問題解決をクラスメイトの仲間と行うことで、お互いに信頼感が生まれ、これまで以上にクラス内の団結力を生み出すことができます。



教室だけでは 体験できない学び

問題解決をクラスメイトの仲間と行うことで、お互いに信頼感が生まれ、これまで以上にクラス内の団結力を生み出すことができます。

パソナグループでの事例

2021年11月

京都有名私立中学校

英語で屋外チームビルディング



コロナ禍に遠方への旅行が制限される中、京都から比較的近い淡路島で屋外アトラクションを使ったチームビルディングEnglish ver.をお楽しみいただきました。グローバル教育に力を入れており、語学をコミュニケーションのツールとして、実践の中で楽しく学ぶ機会を創出。プラン終了後、先生から「非日常体験の中で語学の本質的な魅力を伝えられた」とコメントをいただき、来年の実施も前向きに検討いただく等好評でした。

アニメパーク ニジゲンノモリ 教育旅行プラン



TM & © TOHO CO.,LTD.

アニメパーク「ニジゲンノモリ」の屋外アトラクションを使った教育旅行向けプランです。半日フリー、デイトムフリープランでは、ニジゲンノモリのアトラクションを既定の時間内で自由にお楽しみいただけます。チームビルディングプランでは、アトラクションを体験しながら、自分自身と向き合う必要性や、チームで協力する重要性、課題を設定し挑戦する大切さを学ぶことができます。英語での実施も可能です。

◆ ニューノーマル時代の注目コンテンツ

■ ESD学習



SDGsの基礎知識を学び、生徒一人一人が理解することで、身近な自分ごととしての「気づき」を得ることができるようになります。

メリット



視野が広がる

SDGsを学ぶことで、社会に対する問題意識を持ち興味を持つことで、広い視野で見ることができるようになります。



特色のある教育が学校の強みになる

現在注目されているトピックに関する学びであるため、特色ある学校教育として内外にPRすることができます



推薦入試の自己PR対策になる

願書に記述したり、ポートフォリオに自分の経験として載せることで、推薦入試の強みにすることができます。

パソナグループでの事例



2021年10月 東京都私立高校 地方創生と廃校活用のアイデア創出

修学旅行先の地域の課題を学び、生徒自らが課題解決を考えることをテーマに、旅行先を淡路島へ決定。地方創生セミナーでは、淡路島が抱える地域特有の課題を学びます。今回は、廃校活用について、日本全国の廃校状況を学び、ワークショップで仲間と協力しながら、廃校活用のアイデアをアウトプットしました。学校を身近に感じる生徒ならではの斬新なアイデアが次々と飛び出し活気あふれるイベントになりました。



『地方創生を学ぶ』セミナーと 選べるランチプラン

日本の課題である地方創生を身近なものとして捉えることのできる1時間の地方創生セミナー。また、廃校活用や観光復興に関するワークショップの実施で、知識のインプットだけではなく具体的なアイデアに落とし込むことも可能です。セミナーやワークショップのあとは、地方創生の取り組み事例である地産地消のレストランでランチをお楽しみください。

◆ ニューノーマル時代の注目コンテンツ

■ 芸術鑑賞



日本の伝統文化や幅広いジャンルのエンターテインメントに触れる非日常体験を通して、生徒の感性を養い、新しい視点の獲得につながります。

メリット



視野が広がる

ミュージカルや落語、ストリートプレイ、バレエなど幅広いジャンルに触れることで新しい芸術の感性を磨きます。



”地方創生”を身近に感じることができる

普段の生活の中では、なかなか触れることのできない問題に関して、学び理解することができます。



普段とは違う学びによる新たな発見

学校とは違う環境で、新たなことを学ぶことにより、普段とは違う視点を持つことができ新たな発見を生むことができます。

パソナグループでの事例

2022年5月 兵庫県私立高校様 Awaji Art Circus2022を鑑賞



校外学習で、毎年、芸術鑑賞を実施している高校より、今年は一風変わったオリジナルなショーを希望。淡路島を舞台に2015年から毎年開催されている国際パフォーミングアーツフェスティバルで、世界の様々なジャンルのアートに触れる機会を提供しました。迫力満点のパフォーマンスと会場の熱気と生徒に感じていただき、過去実施した芸術鑑賞で一番思い出に残るイベントだったと高評価をいただきました。

劇場 波乗亭 芸術鑑賞会



絶景の播磨灘をバックに、落語やストリートプレイ、バレエ、ミュージカルなど幅広いジャンルのエンターテインメントを愉しめる劇場「波乗亭（なみのりてい）」。

約200席の劇場で、舞台芸術に触れることで、生徒の美術的感性を研ぎ澄まします。

また、舞台と客席の距離が非常に近く、この劇場ならではの臨場感も魅力です。是非、波乗亭でしか味わえないオリジナルショーの数々をご堪能ください。

◆ ニューノーマル時代の注目コンテンツ

■ 自然・災害学習



教室では学べない五感を刺激する体験によって、日常とはひと味違う生徒さんの側面を発見することができます。また、密を防ぐことができるため注目されています。

メリット



普段味わえない達成感を体験

室内ではなく、屋外でスポーツ体験を行うことで、実際に体を動かします。それにより普段とは違う達成感を味わうことができます。



クラス内のコミュニケーションを活性化

お互いに体を動かす中で、普段以上にコミュニケーションを円滑に取ることができます。クラス内のコミュニケーションを活性化させることができます。



感染症対策も十分に行える

屋外で行うので、室内イベントに比べ、感染症に感染するリスクを減らすことができます。

事例

2022年1月 東京都私立高校 自然から学ぶ多様性について



東京都の私立高校が1月に淡路島へ来島。阪神淡路大震災の災害学習と合わせて、自然や農における循環や多様性について学習しました。セミナーや農体験、ワークショップなどを通して、生徒が自らの考えを自分の言葉で表現し伝えることの重要性と互いの意見を肯定的に認めあう多様性について、実感を通して学んでいただきました。

体感型SDGs研修



SDGsの根幹にある考え方である「共創」「循環」「多様性」を多面的に理解し、体感することでSDGsを自分事にし、実践に繋げるきっかけを提供できる研修プログラムです。

3時間と5時間のプログラムをご用意しており、セミナーやフィールドツアー、農体験、グループワークなどを通じて、生徒の自律心を養います。

◆ 旅行実施に向けた感染防止のための基本的な考え方

「旅行関連業における新型コロナウイルス対応ガイドラインに基づく国内修学旅行の手引き」には、具体的な対策にあたっての考え方として以下の3項目が記載されています。

- (1) 主な感染経路である飛沫感染と接触感染のそれぞれのリスクに応じた対策を検討致しました。
- (2) 飛沫感染は、換気の状態を考慮しつつ、人と人の距離をどの程度確保できるか等を評価致しました。
- (3) 接触感染は、他者と共有する物品や手を触れる場所の頻度を特定し、対策を講じます。

※出典:文部科学省「新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について Q&A(学校設置者・学校関係者の皆様へ)」

【旅行実施に向けた感染防止のための基本的な考え方】

- ① 新型コロナウイルス感染症の主な感染経路である接触感染と飛沫感染を回避するよう、引率教員・生徒・添乗員相互間の動線や接触等を考慮する
- ② 他者と共有する物品や直接手が触れる場所と頻度を特定し、接触機会を軽減する措置を講じる
- ③ 感染リスクが高い「3つの密」な場所・状況を特定し、可能な限り事前に対策を講じる、または避けるような旅程管理を実行する
- ④ 一定の距離・間隔を確保する必要がある場合、可能な限り2m、最低1mを確保するように努める

旅行中の感染防止に向けた 基本行動 うつつさない うつつらない

- ① マスク着用で飛沫感染防止
- ② うがい・手洗い・消毒で接触感染防止
- ③ 共用備品を減らし、個人利用のものを持参
- ④ 密集を避ける、密集を作らない旅程管理
- ⑤ 声による伝達、案内を減らすための工夫・事前準備

◆ 持ち物リスト(児童・生徒)

修学旅行先での健康管理を徹底し感染拡大を防止するため、児童、生徒一人一人の持ち物に以下の物品を加えておきましょう。

【チェックリスト】

- ①マスク(少なくとも1日1枚以上、不織布が望ましい、必要に応じてマスクケースも)
- 2携帯消毒液
- 3体温計
- 4除菌ウェットティッシュ
- 5ハンカチなど手が拭けるもの(多めに)
- 6ポケットティッシュ(多めに)
- 7清潔なビニール袋
(利用済のマスクやティッシュを捨てるため)
- ⑧健康観察カード
- ⑨保護者の緊急連絡先
- ⑩その他



◆ 旅行中の感染防止対策

新型コロナウイルス感染の疑い発生の対応マニュアル

	事象発生	初動	診断結果確定	2次対応	3次対応
保護者			<ul style="list-style-type: none"> 学校より生徒の診断結果が入る 	<ul style="list-style-type: none"> 陽性結果に対応し、生徒が滞在する医療機関又は隔離先に迎えに行く 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の帰宅許可が下りた場合、JTBと相談して移動可能な交通手段で帰宅する
その他の生徒		<ul style="list-style-type: none"> 全員健康チェックの上、保健所の指示に従う（濃厚接触者は医療機関にて受診へ） 	<ul style="list-style-type: none"> 感染予防に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行の継続または中止の判断に従う 	
発症者	<ul style="list-style-type: none"> 37.5℃以上の発熱 息苦しさ（呼吸困難） 強いだるさ（倦怠感） いずれかがある場合 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関にて受診 	陰性と判断	<ul style="list-style-type: none"> 管轄保健所や医療機関の指示に従い、本隊に合流 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き経過観察
			陽性と判断	<ul style="list-style-type: none"> 管轄保健所や医療機関の帰宅許可が下りるまで入院治療または隔離 	<ul style="list-style-type: none"> 帰宅許可が下りた場合、JTBと相談して移動可能な交通手段で帰宅する
学校引率者		<ul style="list-style-type: none"> 濃厚接触者の把握 生徒全員の健康チェックの実施 対象生徒を医療機関に引率 	<ul style="list-style-type: none"> 感染した生徒の保護者に連絡し、必要な場合は保護者に迎えに来るように依頼する 保護者が到着するまで感染した生徒の付き添い 	<ul style="list-style-type: none"> 管轄保健所やJTBと相談して、事後の行程に関する決定を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 全保護者へ連絡し、感染拡大の対策と行程変更内容の連絡を行う
JTB（添乗員）		<ul style="list-style-type: none"> 医療機関への連絡 管轄保健所への連絡 	<ul style="list-style-type: none"> 事前事後の施設に連絡して対策を立てる 学校と事後の計画について協議する 	<ul style="list-style-type: none"> 濃厚接触者の隔離スペースを確保する 隔離対象者に対する帰路に手配を行う 感性拡大対策を講じた上での旅行継続（宿泊部屋追加手配、バス増台、追加添乗員派遣など） 	

事例その1

発熱時の対応

- 保健師が2回検温。
- 先生・添乗員・看護師・宿舎の担当で緊急ミーティング。
- 宿から車で15分の距離に国立病院あり。
- 宿から2台の車(1号車:生徒、2号車:教員&添乗員)で病院へ。

診断結果

- コロナ陰性（疲れによる発熱）

診断後の対応

- 復路はタクシーで宿へ帰ってよい。ご家庭にも教員より電話連絡。
- 夜は一人部屋で寝る。
- 通常と同じ感染対策でOK(マスク着用)。
- 翌日は、一番負担のかからないコースに変更。
- 基本的に復路は本隊と一緒に帰ってよい。

事例その2

発熱時の対応

- 病院にてPCR検査。結果は翌日の夕方の見込み(それまで宿待機)
- 引率者でミーティングを開き、翌日の確認、各種変更対応。1添乗員4名中1名・引率教員1名を該当生徒対応。2該当生徒は保健室にて結果が出るまで待機。3陽性の場合、シミュレーションに従い、離団対応。4ご家族も濃厚接触者にあたる可能性が高い。5陰性の場合、どのようにして本隊に合流するかを確認。

診断後の対応

- コロナ陰性（疲れによる発熱）

診断結果

- 宿泊施設の車にて、次の宿泊場所へ送迎し合流。翌朝までは保健室。

株式会社パソナグループ

事業開発部 観光営業プロジェクトグループ

兵庫県淡路市夢舞台2番地 展望テラス

E-Mail : awaji_a.sales@pasonagroup.co.jp

Tel : 050-3684-4245

淡路島観光・法人向けサイト
<https://awaji-resort.pasonagroup.co.jp/>